夢の島

それはただの気まぐれで
ビルの谷間をそそくさとあてどもなく

感覚の刃(やいば)を両翼に広げて

訳もなく人々に切りつける

それはまだ水の上で
やるせなさにオールを引いて
みじめさと虚栄に胸を張り
自分の重みに堪え切れなくなる

走りかけては押しとどめ
沈みかけては必死でもがき
次第に麻痺してゆく毎日に
安穏のヴェールが静かに落ちる

疲れと諦めが支配し
知を好まぬ世界が人を操り
降り積る灰は投げ棄てられ
幸福という無が倦怠のうちに続く

哀れな抱擁は貪るが如く
ただ空しさを連ねてゆき
行き場のない欲望がうずくまり
塗りつぶしても浮き上がってくる

それはまだ水の上で
切なさの中にありおまま
みじめさと感動をさらけ出し
知への放浪は果てしなく

それはただの無邪気さで
誇りもないし義務でもない
がんじがらめに呻く人群れをすり抜け
束縛を引きずり歩いてゆく

(1985.7.9)